

アメリカ研修旅行－事務官の立場から－

建築工学科 萩田秋雄
教務第一課学生係 飯塚桂子

要 旨 平成10年3月22日から31日の10日間アメリカ研修旅行に今回初めて事務官が同行した。姉妹校であるナショナル聾工科大学（NTID）及びギャロデット大学等における学生に対する厚生補導面の支援体制及び学生交流に関する調査を事務官の立場から行った内容について報告を受けたものをまとめた。

キーワード：研修旅行，学生生活，就職，厚生補導

1. NTIDでの研修

1.1 学生生活の金銭面について

授業料等は、基本的に日本と比較しても高いという印象である。なお、co-op（企業実習）期間中の学期分の経費は必要ない。しかし、どこの企業に行くかによって生活費にかなり差があり（高いニューヨーク方面では\$5,500以上、安いカナダ方面ではほとんど0）これは各自負担である。寄宿舎は2～3人部屋で、本学の寄宿舎より1人あたりのスペースは狭く、自炊は不可である。

基本的な学生の経費は、次のとおり。〔 〕内は、留学生の場合。本旅行中の1\$＝約130円。

- ① 授業料——1学期@ \$1,737 × 4学期
 [@ \$3,300 × 4学期]
Summer Vestibule @ \$311 [@ \$591]
- ② 寄宿料——1学期@ \$1,209 × 4学期
Summer Vestibule @ \$170
- ③ 食 費——1学期@ \$1,006 × 4学期
Summer Vestibule @ \$172
- ④ 学生費——1学期@ \$160 × 4学期
 保健管理，学生活動等
- ⑤ その他——オリエンテーション費 \$60，保険料（病気）\$260，実験費 \$60～230，教科書等，雑費（交通費，補聴器の電池等生活上の雑費）\$50～60。

1.2 学生のアルバイトについて

学内のいたる所で学生のアルバイトを利用している。学生にとっては収入源（1時間あたり\$5.25，1週間に10時間の制限）となっている。（食堂，売店，劇場のチケット販売，来客者等のガイド等）

1.3 奨学金について

アメリカ政府の奨学金がある。10年返済で学力等日本よりもかなり厳しい条件がある。

1.4 重複障害について

聴覚障害だけでなく、本学で言えば、視覚障害関係学科に入学資格があると思われる程度の重度の視覚障害を伴う者、肢体不自由を伴う者、さまざまな重度の重複障害者がいる。専門のスタッフが障害に関する検査等を行い、それを支援する体制をコーディネートする等、特別のこととしてでなくごく自然に受け入れている。

1.5 就職について

ロチェスターは、企業も多く、技短と同じようにスタッフが支援する場合と学生自身が探してくる場合とがある。

学生自身が探するためのノウハウを教える授業、また、企業向けに聴覚障害を知って貰うための印刷物を作成し配付する等PRもかなり積極的に行っている。

1.6 保健管理センターについて

学生の健康管理面でオーガストセンター（保健管理センター）がある。

診療時間——8:30～19:00（月～木）
 ～16:30（金）

ただし、受付は、30分前まで（緊急を除く）で、水曜日の12:00～14:30は、会議等のため閉鎖する。

診療時間以外の緊急時は、救急医療についてのトレーニングを受けた学生のボランティアグループが24時間体制で救急車の要請等をサポートする。

スタッフは、18名（内非常勤3名）で内訳は次のとおりである。

ドクター	2
ナース	4（1）
ナースプラクティショナー	5（2）
ヘルスエデュケーター	2
インタープリター	1
サポートスタッフ	4

カウンセリングルーム等は、婦人科対応の2部屋を含め13部屋有り、トイレ，シャワー付きの部屋も有る。

カルテは、卒業後、7年保存となっている。

学生のいろいろなニーズに答えるための情報提供資料
いる。(アルコール、性、麻薬等、メンタルヘルス、ス
ポーツ、資格、語学、手話等)

2. ギャローデット大学にて

ギャローデット大学は、概要説明と施設見学のみであ
った。伝統のある重厚な感じの建物が多い。寄宿舎は、
基本は2~3人部屋でNTIDと同様で、自炊は、不可
となっている。留学生の数が減っているのか日本からの
留学を盛んに勧誘しているという感想を持った。

3. 全体を通して

施設全体がきれいである。新しいという意味よりもゴ
ミがちらかしていない。廊下(通路)に物が置いていな
い。ゴミ箱・灰皿の数も少ない。これは、私のイメージ
していたアメリカとはかけはなれていた。特に、RIT
(NTID)は、つくばと似た環境のためか、車・自転
車の数が多いが、違法駐車・放置自転車等が無い。美観
だけでなく、重複障害(車椅子・視覚障害等)のある者
にとっても、また、非常時には、全員に重要なことで
ある。

いたる所が障害(聴覚障害だけでなくすべての障害)
に配慮しており、重複障害者も特別にでなくごく当たり
前のこととして受け入れられている。

スタッフは、障害に関することについては、特に、ス
ペシャリストまたは、エキスパートである。本学の場合
も障害者のための大学として設立されているわけである
から、人事の関係でいろいろあろうが事務部門でも考え
なければいけない問題の1つである。

予算規模が大きいだけでなく100のものを200ぐら
いに効率的に使っている。例えば、学生の学内でのアルバ
イト、ラーニングセンターの活用の仕方、授業中の学生
の様子等お金を支払っている以上それなりの結果を得た
い、また、「1つのことが次のものを生み出す」という
う、大学というより企業的な考え方がうかがわれた。

10日間学生と一緒に過ごすことによって手話と音声と
同時に自然につくようになった。特に不得手だった読み
取り、指文字がスムーズになったように感じた(客観的
に見てどうだったかはわからないが)。手話は、1つの
言語であることを再確認した。

最後に、事務官という立場で今回初めてこの研修に参
加する機会をあたえられ、私なりに大変有意義な時間を
持てたと感じている。この体験を私個人として所有する
のではなく大学の事務官の体験として本学の今後のため
に生かせたらと感じている。

(この研修への参加にあつては、事務部長をはじめ事
務部門の皆様の数々の御配慮をいただき、また、同行の
萩田先生、松藤先生、新井先生、皆川先生には、大変お
世話になったことを御礼申し上げます。)

参考 持ちかえった資料

- ・ WHAT DOES IT COST
HOW DO YOU PAY FOR CHARGES
WHAT FINANCIAL AID IS AVAILABLE
- ・ Free Application for Federal Student Aid
- ・ CENTER FOR STUDENT RESOURCES (Audiology)
- ・ Access/Accommodation Services
- ・ The Eye and Ear Clinic at NTID
- ・ Services For Deaf Students with Secondary
Disabilities
- ・ STRENGTHEN YOUR TEAM (Workshops for deaf and
hearing managers and employees)
- ・ TIPS FOR COMMUNICATING WITH DEAF EMPLOYEES
- ・ LOOKING FOR CAPABLE NEW TALENT?
- ・ NEW SOLUTIONS TO OLD PROBLEMS (Telecommunica-
tions for Deaf and Hard-of-Hearing Employees)
- ・ Entrance Counseling guide for Borrowers
- ・ Student Health Center
- ・ Tiger Tips on FIRST AID